

令和2年度 防衛大学校卒業式
岸 防衛大臣訓示

本日ここに、菅内閣総理大臣御臨席のもと、防衛大学校の卒業式が挙行されるにあたり、防衛大臣として一言申し上げます。

卒業生の諸君、卒業おめでとう。

今、この壇上から諸君一人一人の顔を見渡す時、私に向けられる皆さんの眼差しが、たくましく、気迫あふれるものであることに、喜びとともに頼もしさを感じています。

ここ小原台の地で、卒業生諸君の一人一人は、この4年間、自らの心身を鍛え上げるため、広い視野と科学的思考力を身につけるため、また、豊かな人間性を培うため、あらゆる努力を惜しまなかったことと思います。

その中で、小原台での日々は、嬉しいこと、楽しいことばかりではなかったと思います。時には辛く、涙するほど苦しいことを乗り越えて、諸君は本日、この卒業式に臨んでいることと思います。

諸君におかれては、この4年間の努力に自信を持つとともに、同期との間で育んだ友情と信頼を片時も忘れず、困難な任務を全力で全うする自衛官として、大きく羽ばたいていかれることを切に望みます。

諸君は、この後、宣誓式に臨むこととなります。そこでは、「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託にこたえること」を宣誓し、晴れて自衛官としての道を歩み始めることとなります。

防衛省・自衛隊の主たる任務は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛することです。自衛官となる諸君は、そのことを常に念頭におき、職務に臨んでいくこととなります。

我が国を取り巻く安全保障環境は、国際社会のパワーバランスが大きく変化しつつある中、一層厳しさと不確実性を増しており、常に、その動向を見逃すことのないよう、注視していく必要があります。また、国内に目向けると、台風や大雪などの自然災害に加え、新型コロナウイルス感染症との闘いにも直面しています。

このように、戦後最も厳しいと言っても過言でない安全保障環境の下、これからも、防衛省・自衛隊は、国民の命と平和な暮らし、そして我が国の領土、領海、領空を断固として守り抜いていかなければなりません。

自衛隊に求められる役割や期待は一層大きくなっています。諸君は、先輩たちが長年にわたる努力で勝ち得てきた国民の期待と厚い信頼に対し、いかにして応えていくべきか、国民を守るために今、何をすべきか、常に自問自答し、自衛官としてあるべき姿を不断に追求し続け、創造の精神をもって、より一層発展させてくれることを切望します。

29名の留学生の皆さん。ここ小原台で過ごした生活は、母国との生活とは大きく異なり、慣れないこと、戸惑うことも多々あったと思います。しかしながら、様々な困難を乗り越え、今日、無事に卒業式を迎えた諸君に、心から敬意を表します。

本校での知識や経験が、母国において存分に活かされることを願うとともに、ここで育んだ友情は真の友情であり、今後も母国と我が国との友好親善関係をより一層深化させるための架け橋となってくれるよう、切に望みます。

最後になりますが、日頃から学生に対し、多大なる情熱と愛情をもって教育に取り組んでこられた國分学校長をはじめとする教職員各位に、感謝と敬意を表します。

そして、これまで卒業生を育て、温かく見守ってくださった御家族の皆様、日頃から、防衛省・自衛隊に、多大なる御理解・御協力を賜っております国会議員の皆様、協力団体や神奈川県・横須賀市をはじめとする地元自治体の皆様、優秀な若者の留学に御尽力いただいた各国国防関係の皆様。

さらには、我が国の防衛にとって大事な役割を果たしておられる各国の代表者の皆様。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、卒業式にお越しいただくことは出来ませんでした。この場にて防衛大臣として深く感謝と御礼を申し上げます。

卒業生諸君。諸君におかれては、これからもお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、自身と自衛官としての誇りをもって職務に邁進していただくことを切に願い、私の訓示といたします。

卒業おめでとう。

令和3年3月21日
防衛大臣 岸 信夫